

グローバル人材育成プログラム に参加して

米田 知真
Kazuma YONEDA
電子情報学科 3年

1. はじめに

2016年8月11日（木）から28日（日）にかけてアメリカのカリフォルニア州にあるサンフランシスコ、サンノゼ、ハイワードにおいて約3週間のグローバル人材育成プログラムに参加した。今回の研修の主な目的は、日本で働いている日本人の考え方や海外で働いている日本人または外国人との考え方の違いを学ぶことと、アメリカと日本での生活の違いを学ぶことであった。今回の研修日程を表1に示す。

表1 研修日程

8月11日	入国 シリコンバレーツアー
8月12日	シリコンバレーツアー 観光
8月13日	キャリアセミナー
8月15日 8月19日	インターンシップ
8月21日	ボランティア 交流会
8月22日 8月26日	インターンシップ
8月28日	帰国

2. 研修内容

2.1 シリコンバレーツアー

シリコンバレーツアーでは Intel や Google などの有名な企業の博物館や社内を見学し、また ORACLE 社の食堂で昼食をとったり、Plug&Play という企業家支援センターを見学した。このツアーの中で一番印象に残っているのは Google の社内見学であった。そこでは日本の企業とは異なり、様々の人

種の方が働いていた。また、スーツを着ている人は1人もおらず、仕事の合間にジムで体を動かしたりビリヤードをしたり社内のゲームセンターで遊んでいる人もいた。また仕事もチームで話し合っているグループもあれば、ヘッドホンをしながらかつて1人で黙々と働いている方もいて、働き方が多様だなと感じた。

2.2 キャリアセミナー

キャリアセミナーではサンノゼにあるホテルにおいて現地で起業されている日本人の方々として、外園様、戸村様、またシリコンバレーにて Athena-Health Inc. にて勤務されている工藤様の講演会に参加した。この講演会では主に、何故日本ではなくアメリカで働こうと思ったのか、また何故今の会社を起業するに至ったのか等の話を聞いた。中でも講演者の1人である戸村さんは現地で起業されている私たちと同世代の方であった。戸村さんのような同世代の方から話を聞いたのはとても自分にとって刺激になった。そして今の自分に足りないこと、今後どうしていくべきかととても考えさせられた。また、現地で勤務されている工藤さんには今後の自分の進路について親身に相談に乗って頂き、もし工藤さんが現在の自分の立場ならどうするかといった様な深い相談にも乗って頂いた。また、現地で起業されている外園さんにはアメリカと日本の違いや外国人と日本人での考え方の違い、生活の違いについて教えて頂いた。今回のキャリアセミナーは自分の将来について深く考えさせられ、将来についてのアドバイスを頂きとても貴重な時間となった。

2.3 ホームステイ

私は過去に一度もホームステイの経験がなく、今回が初めてのホームステイで初めての海外渡航だった。そのため、日本語が通じない初めての環境でも緊張していた。私のホストマザーはカンボジア出身の方で、色々な方がよく遊びに来られていた。ホストファミリーや遊びに来られる皆さんはとても

優しく、私が困っている時は皆さんで助けてくれて、国籍が違い、言葉がうまく通じなくても助け合えるのは素晴らしいことだと感じた。また、今回のホームステイでは言いたいことが完璧に伝わらないもどかしさを感じたので、これからはもっと英語の勉強も頑張りたいと思った。

2.4 インターンシップ

今回のインターンシップでは日系企業である HEXEL TECH Engineering でお世話になった。こちらの企業は日本の六興電気株式会社の子会社である。六興電気株式会社は主に電気関係の会社で、HEXEL TECH Engineering も電気関係の会社である。この研修期間で私が主に行った事は、米軍基地から依頼された電気装置をメーカーから調達し、その見積書を作成することと、FileMaker Pro というソフトを用いた会社のホームページのレイアウトの変更であった。米軍基地からの依頼はとても細かく、様々な部品からひとつの装置が組み立てられ、その部品一つ一つにも細かい要求が出されており、その要求とメーカーから送られてきた書類が間違っていないか確認することが第一段階で、ミスを見つけたらメーカーの方に連絡し、訂正された書類を元に見積書を作るのが最初の課題だった。書類のミスを見つけることはとても難しく、自分自身ではもう完璧に出来ていると感じていてもまだミスがあり、仕事をほぼ完璧にこなす難しさを学ぶことが出来た。次に印刷の向きを変更し、印刷する用紙の枚数を減らすために FileMaker Pro を用いてレイアウトの変更を行った。このとき、大まかな作業なら少々

雑にレイアウトしても正しく表示され問題は無かったが、繊細なレイアウトだと少しレイアウトがずれただけで正しくデータが表示されなくなることがあった。このことに関して自分が行った作業の何が悪かったのか、どうして正しく表示されないのか、どうしたら正しく表示されるかななどを自分自身の力で解決することは難しかったが、解決するために模索し、自分の力で仕事をやりとげることの重要性を学んだ。

3. おわりに

今回のプログラムを通してたくさん経験をさせて頂いた。自分自身がどれだけ世界を知らないでいたのか、また将来のことを甘く考えすぎていたということ学ぶことができた。それとともに、これからは大学での学業のみならず英語の勉強にも励み将来の選択肢を広げたいと考えている。また私はまだまだ未熟な人間で色々なことにおいて経験が少なく感じたので、これからはあらゆることに積極的に挑戦し、アメリカ以外の国にも訪れ、まだ見たことのない世界を自分の目で見てみたいと思っている。また今回のプログラムを通して一番感じたことは、人の温かさである。アメリカは多民族国家であり、色々な人種の方が生活しているが、みんなが助け合って生きているように感じたからである。実際自分が困っているとき、色々な国の方に助けて頂き外国の人々への見方が大きく変わった。

今回のインターンシップにおいて、社会を経験する貴重な機会を与えてくださった HEXEL TECH Engineering の皆様に心より御礼申し上げます。